

ふるさと池内探検隊ニュース

平成 28 年 2 月 18 日

第 6 号

舞鶴市城南会館

☎(0773)78-1800

ふるさと 堀・池ノ内下を探検する

雨の降る中 寒い中、でも 楽しかった！



堀古墳の写真を手

はじめ、第6回探検隊は1月23日（土）に実施する予定でした。しかし、前日に強い寒波がくるといいう予報が出されたので、1週間延期することになりました。ところが、23日はよい天気です。でも、仕方ありません。第6回探検隊は30日（土）に実施しました。

当日は、小雨が降る寒い天気でした。それでも、最終的に22人が集まってくださいました。池内の子どもたちも5人参加してくれました。

雨が降るので、池内公民館の軒下で久手嘉朗先生の話の聞きました。公民館の前には、堀と池ノ内下が広がっています。その景色を眺めながら、先生のお話をうかがいました。

堀にあった隔離病院

今の舞鶴支援学校のある所は、江戸時代には谷でした。明治の始めころ、この場所に伝染病が流行ったときのために隔離病院が建てられました。この隔離病院が移設されることになり、大正9年に建物が堀に払い下げられました。そして、堀の公民館として使われたということです。

昭和8年には、隔離病院跡には別所にあった池内駐在所が設けられました。ところが建物が老朽化したため、1年で現在の布敷に建て替え移転したそうです。

平成3年3月、舞鶴自動車道舞鶴西インターチェンジが竣工します。この高速道路建設に、たくさん土砂がいました。そのため、隔離病院のあった菖蒲谷が削られます。そして広い土地ができました。ここに舞鶴支援学校が建つことになったのです。



京都府立舞鶴支援学校

高速道路と堀古墳の発掘

高速道路建設にともない発掘され、今は見られない古墳として堀古墳があります。

堀古墳に埋葬されている遺体は、火葬をされたものだそうです。発掘調査されているときの写真を見ると、石が規則正しく並べられている様子が分かります。



発掘中の堀古墳

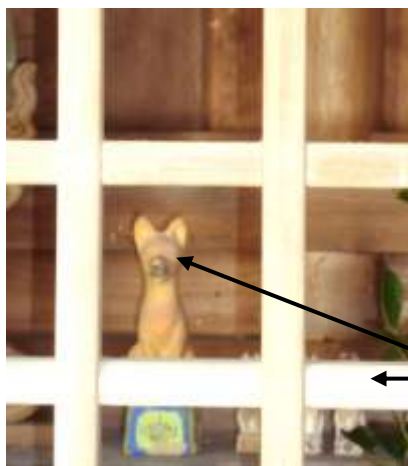


堀の大川神社

大川神社と稲荷神社に祀る神

堀にも池ノ内下にも、大川神社と稲荷神社があります。

大川神社に祀られている神様は、顕宗天皇のころ由良川を金色の鮭に乗ってやってきたそうです。右手に鮭、左手に五穀の種を持っていたので、五穀豊穰・養蚕の神様としてあがめられています。また、オオカミ（犬）と鮭を使者としたので、安産の神様でもあります。



お稲荷さんは五穀豊穰・農業の神様として祀られています。お稲荷さんにはキツネが祀られています。稲荷神とキツネとは、もともと関係ないようです。しかし、キツネは穀物を食い荒らすネズミを退治してくれますし、キツネのしっぽの形や色が稲穂の実った様子と似ているので、お稲荷さんではキツネを祀るようになったのではないかとのことでした。

池ノ内下のお稲荷さん

薬と医療の薬師様を祀る薬師堂^{まつ}

堀の薬師堂は薬と医療の薬師様を祀っています。耳の病にあらたかだと思われていました。河原で穴のあいた石を見つけて持って行き、薬師様にお願いするとよいと言われました。

また、昭和30年ごろまでは、死者をかごで運んできて薬師堂の前で左に3回回って野辺の送りをしたのだそうです。



子どもを守る 子守地蔵



池ノ内下の喜雲寺の下にある**子守地蔵**は、子どもを守るお地蔵さまです。毎年8月23日の地蔵盆には、子どもたちが集まります。

この辺りには、**池ノ内下古墳**や源平の戦いがあったとき、多くの平家の武者が流れ込んできた**城ヶ谷**があります。また、この戦いで戦死した武者や兵を埋めた所もあります。ここには、乱れた世の中にあって仏教を廃れさせてはならないと、**経塚**も設けられました。

戦国時代には**池下城**や**池下支城**が設けられました。池下城と池下支城からは、布敷や今田を見通して、街道を行く人々や敵を監視していたと聞きました。



喜雲寺に到着



喜雲寺からの見晴らしも良かった

江戸時代からの

ねはんす 涅槃図が伝わる喜雲寺

喜雲寺はもともと真言宗の寺でしたが、**織田信長**に攻められて曹洞宗の寺にされました（真言倒し）。池内の曹洞宗の寺の中で最も古いのが喜雲寺だそうです。

喜雲寺はもともと堀と池ノ内下を檀家とする寺でした。しかし、戦乱の世の中で各家の位牌を守るため、位牌を別所の**高福寺**に避難させました。世の中が穏かになって、位牌を元に戻すとき、池ノ内下の位牌は全部持ってきたのだけれど堀の位牌に運び忘れたものがあったそうです。それで、喜雲寺の檀家はほとんどが池ノ内下です。

織田信長は寺を焼いたけれど、**細川幽斎**は喜雲寺を保護しました。

喜雲寺は**堅益和尚**によって開山されたといわれています。江戸時代に一時無住の寺となりましたが、天保5年（1830年）に**金嶺和尚**によって中興されました。しかし、残念ながら昭和39年に無住の寺となり、今は常徳寺の和尚さんにお世話をいただいています。



寺には開祖や住職が祀られている

ねはんず 涅槃図を見せていただく

私たちが喜雲寺に行くというので、寺総代の杉本さんと鉄尾さんが寺を開けて待っててくださいました。総代さんたちは御本尊さまや住職の像や位牌を見せてくださっただけでなく、江戸時代の安永8年（1779年）から伝わる**涅槃図**を見せてくださいました。



御本尊様も拝見しました

涅槃図というのは、お釈迦さまが亡くなられた時の様子を絵に表したものです。お釈迦さまの回りに弟子のお坊さまやいろんな人たちが嘆き悲しんで集まっています。人間たちだけでなく、いろんな動物たちも集まってきました。また、餓鬼たちも集まっています。この絵が示しているように、お釈迦様はみんなから慕われていたので、その悲しみを描いているのです。

この涅槃図は近年傷んできたので、江戸時代にこの涅槃図を寺に寄付した人たちの子孫の方が修復をされ、きれいになりました。

子どもを守り お母さんを助ける「乳神さま」



ほこら
弁財天（乳神）さまの 祠 の中

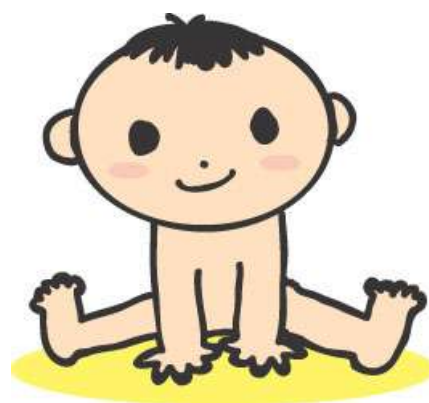
池ノ内下公民館の正面右手には、大川神社やお稲荷さまだけでなく、**弁財天（乳神）**や天王社、妙見社、山の神さまなどが祀られています。その中の弁財天（乳神）さまについては、こんなお話があります。

池ノ内下から綾部市の於与岐に抜ける道に**丹波峠**を通る道があります。きこりがこの道を歩いていると、峠の手前で赤ん坊がギャーギャーと泣き叫んでいます。腹を空かせお乳をほしがって泣いているようです。

きこりが泣き声のするほうに歩いて行くと、突然、泣き声がしなくなりました。おかしいなと思って、さらに近づいていくと、赤ん坊は大きな石灰岩の間にいました。でも、赤ん坊の近くにお母さんの姿は見えません。おかしいなと思っていると、石灰岩のすき間から、突然、白いお乳が出てきました。泣いていた赤ん坊は、そのお乳を飲んで満足して泣きやんだのです。

こんなところにお乳が出るわけがない。そう思ってきこりが辺りを見ていると、突然、笑みを浮かべた天女が出てきてその岩の上にすわり、お乳をしぼりだしたのです。

それからは、丹波峠を通る人たちはその岩を見、その話を聞きながら通るようになりました。また、村の人たちはこの岩を大切に守り続けました。お乳が出ないお母さんや出産を心配する女の人たちは、峠の近くにある岩まで行って子どもや家族の幸せを願うのでした。しかし、峠まで行くのはたいへんです。そこで、村の中に弁財天として天女を祀るようになったということです。



山の神さんを祭る

この探検隊には、池ノ内下の鉄尾さんが参加してくださっていました。久手先生が鉄尾さんにたずねました。

「鉄尾さん。池ノ内下では山の神さんをいつ祭っている?」。鉄尾さんが答えます。「7月の山の神さんと、12月10日です。ねえ。」。

山の神さんは、どこも年2回祭っていました。山の神さんからは、薪や木の実、山菜など、たくさんの恵みを受けました。

小学校での 冬の暖房

久手先生が、今度は85歳になるという方に聞きます。

「あんた、小学生の時、なにで暖をとった。」

「そうですね。火鉢で暖をとりましたなあ。」

もちろん、火鉢の中には、炭火が入っています。

「持って行ったお弁当が冷えてしまうものやさかい、朝、火鉢の回りに置いて温めておいたら、おかずのにおいがしてきてなあ …。」という話も出ました。

それから、小学校の暖房は、薪（まき）ストーブ（「だるまストーブ」ともいいました） → 石炭ストーブ → 石油ストーブ と変わっていきました。

今では、各小中学校ともエアコンが入っています。



池ノ内下公民館での修了式



乳神さまの話などを聞いた公民館で「ふるさと池内探検隊」の修了式をしました。

昨年6月の第1回から、ずっとお世話になった久手嘉朗先生は、家庭教育の大切さと池内小学校の子どもたちの育成などについて話してくださいました。

家庭教育は父親と母親がお互い助け合い、力を合わせて行うべきだというお話でした。また、この取り組みに池内小学校の子どもたちが参加してくれたことを、

とても喜んでおられました。郷土について知ることは、郷土を愛する心を育むともいわれました。池内のすばらしい文化と伝統、守ってきた自然を知ることが、それを守っていく心情も育てていくことでしょう。

ふるさと池内探検隊に参加して

- 地元にながら、貴重な文化財や歴史について理解不十分でした。大人が再認識し、次世代へ受け継いでいくものは何か。先人の苦労の上に成り立っている今日、（心を大切に）ふるさとを愛する”心”を伝えていきたいものだと思います。貴重な”知る”機会を与えていただき、ありがとうございます。（できれば、子どもたちが探検してキャッチしたものは何か、発揮・発表する機会があれば良かったかなと思います。）⇒（大人も再認識する良い機会になったかなと感じます。）
- 寒い日でしたが、宗派が同じ喜雲寺にお伺いし、貴重な掛け軸も見せていただき良かったと思います。昔の街道にはいろいろな歴史があり、おもしろかったです。ありがとうございます。
- 地元に住んでいながら知らない”発見”を教えていただき、勉強になりました。今後に生かしていきたいと思います。先生の熱弁、すばらしい。

- 山の神、乳神、薬師堂などなど、なぜあるのか。意味があることが理解できました。参加できて良かったです。ありがとうございました。



左から 稲荷社・弁財天・天王社・妙見社

- 最終となり、寒い中ですが楽しんで歴史の勉強ができたこと、感謝します。子どもさんの生き生きした姿を見て、今後さらに頑張っていきたいと思いました。

- たくさんの史跡があることがわかりましたが、ここでは、多くが高速道路のルートになっていたようで、貴重な物が消えていったようです。貴重な時代の産物と現代社会とのバランスをとることの難しさを感じた一日でした。涅槃図は色鮮やかで、じっと見入ってしまいました。



ここの山にも城が…

- 池内に城があったことは知らなかった。
- 池下のことがいろいろ知れて、よかったです。昔は、山に城があったことを知りました。知らないことが知れて、おもしろかったです。ありがとうございました。
- この池内に池内支城などの城があると知って、びっくりしました。だけど、今、その城がないのは残念だと思います。

それに、今の舞鶴支援学校が旧隔離病院というのは初めて知って驚きました。そして、もし、ぼくの耳が悪くなったら、薬師堂に川原で見つけた穴のあいた石を持って行ったら、本当に耳が良くなるのかなと思いました。

久手先生の話は1mm以上の力になったと思います。

- 二百三十年前のお寺の涅槃図を見て、こんな近くにこんな貴重なものがあったのだととても驚き、感激しました。堀にお城があったこと、支援学校は昔、隔離病院だったこと、知らない昔話を聞き、とても楽しく短い時間でした。とても貴重な知識を教えていただいたこと。子どもたちもそれぞれがいろんな思いを巡らし、これからの生活も違ってくると思います。そして、語り継いでくれたらと思います。本当にお世話になり、ありがとうございます。

- 自然を大切に、そして自然から恵みをいただいていたこと。先人たちの思いや苦勞、そして神として祀る思いを、これからも大事にしていきたいと思います。池内探検隊、とても楽しかったです。自然豊かという思いだけのこの地でしたが、久手先生のお話を聞き、鉾山や地形のこと、歴史のこと、たくさん知れて良かったです。“ふるさと発見”の探検隊でした。ありがとうございました。お世話になりました。



池内川の清らかな流れ（五郎滝）

- 地元なのに知らなかったことがたくさんあり、たくさんの驚きがありました。鉾山のことや寺のこと、地藏のことなど地元の知らない人はたくさんいると思うので、記録を遺産として残せたらと思います。これだけの歴史遺産は貴重だと思うし、地元のみんなが知るための機会があれば、残る人は少しでも増えると思う。
- ぼくは、信長が寺を焼くのは何のためかなと思いました。喜雲寺の鐘を鳴らすことができたので、良かったです。
- 乳神に出てくる天女は、とても優しいと思います。
- 寒い中、ありがとうございました。池内探検隊に参加できて幸せでした。
- 歴史探訪で、この地域に誇りを持てる、自信を持てる一助となりました。池ノ内下～於与岐間の道が府道として整備されたことが理解できました（池内が京街道につながっていたから）。
- 第1回目から参加したかったです。ふるさとを見つめ直す機会になりました。

参加者の皆さん 池内の皆さん ありがとうございました。

昨年6月から行ってきた池内探検隊。皆さんの力で数々の成果を挙げました。すばらしい地域の財産をつくり上げてきた先人に感謝しながら、探検隊活動を終えます。

この探検隊活動を支援して下さった池内区長連合会長の安達猛様、中井博信様を始めとする区長の皆さま、杉本芳憲様を始めとする池内振興協議会の皆さま、吉岡正校長先生を始めとする池内小の皆さま、そして池内地域の皆さまに心からお礼申し上げます。